

口腔顔面痛関連アンケート調査

研究分担者 小川 徹
研究協力者 日原 大貴

東北大学大学院歯学研究科
東北大学大学院歯学研究科

研究要旨

本研究は、口腔顔面痛を有する患者に対して質問紙調査を実施し、中枢性感作症候群との関連の評価することで患者の病態について検討することを目的に実施した。

A. 研究目的

口腔顔面痛は口腔内や顔面に生じる痛みであり、歯や歯肉だけでなく、顎関節、咀嚼筋の痛みも含まれる。中でも痛みが慢性化しやすい顎関節症や舌痛症のような疾患は中枢性感作が背景にあると考えられるケースが多く存在する。以前の愛知医科大学の報告で、Central sensitization Inventory (CSI) を用いた慢性口腔顔面痛患者における評価で、様々の自己記入式の質問紙と一定の相関を持つことが示され、口腔顔面痛患者の中枢性感作スクリーニングツールとして有効である可能性が示されている。

そこで本研究では、多施設で実施することで症例数を増やして、より詳細に口腔画面痛患者の病態について評価、検討することを目的に東北大学病院口腔内科リエゾンセンターならびに咬合回復科で、CSIを含む質問紙シリーズを用いた調査を実施した。

B. 研究方法

東北大学病院歯科部門を通院中の患者で、20 歳以上の男女、口腔画面領域の慢性疼痛を有する患者を対象とする。質問紙は CSI 以外に、Numerical Rating Scale (NRS)、Pain Disability Assessment Scale (PDAS)：疼痛生活障害評価尺度、Hospital Anxiety and Depression Scale (HADS)：不安・抑うつ、Pain Catastrophizing Scale (PCS)：疼痛破局的思考（反芻、拡大視、無力感）、Pain Self-Efficacy Questionnaire (PSEQ)：自己効力感、Athens Insomnia Scale (AIS)：アテネ不眠尺度、EuroQol 5 Dimension 5 (EQ-5D)：QOL 評価を含むものとし、

回収された質問紙は匿名化し、愛知医科大学に提出を行い、解析を行う。なお本研究は東北大学大学院歯学研究科研究倫理審査委員会の承認（受付番号：23620）を得て、該当する患者に同意を得たうえで実施した。

C. 研究結果

期間内に回収された質問紙は 11 例で、一部を愛知医科大学に送付し、追加データとして共同で解析を実施した。

D. 考察

新たにデータを追加できたことから、CSI を用いた口腔顔面痛患者の中枢性感作の評価の詳細な解析に寄与する結果である。一方さらに症例数を増やすことで、より詳細な解析が可能となることから、引き続き症例数を追加するためにアンケート調査を継続する必要がある。

E. 結論

口腔顔面痛患者の中枢性感作の評価に寄与するデータ収集を行った。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

西須大徳、日原大貴、小川徹、牛田享宏、西原真理.

口腔顔面痛患者における中枢神経感作の特徴. 第 45
回日本疼痛学会. コラッセふくしま. 福島.
2023/12/8-9

G. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3.その他

なし